

2014年10月25日[土]

有楽町朝日ホール

(東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン11F)

午前10時～午後4時

入場無料(要参加申込み) 定員600名

※講演資料集は有償(1部500円)で販売します。

お申し込み・お問い合わせ先

シンポジウム事務局(株式会社クバプロ内)

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-11-15 UEDAビル6F

TEL: 03-3238-1689 FAX: 03-3238-1837

E-mail: nabunken1025@kuba.jp

http://www.kuba.co.jp/nabunken1025/

遺跡の年代を測る ものさしと奈文研

10:00~10:05

開会挨拶

松村恵司(所長)

10:05~10:50

年代を測るものさしの作り方

難波洋三(埋蔵文化財センター長)

10:50~11:35

古代土器の年代推定

— 都の調査・研究成果と地方の視点 —

尾野善裕(都城発掘調査部 考古第二研究室長)

昼休憩

12:40~13:25

時のものさしとしての木簡

渡辺晃宏(都城発掘調査部 史料研究室長)

13:25~14:10

土器の年代と木簡の年紀

神野 恵(都城発掘調査部 主任研究員)

休憩

14:25~15:10

白鳳か天平か、瓦が解決した
「薬師寺論争」

石田由紀子(都城発掘調査部 考古第三研究室研究員)

15:10~15:55

木の年輪で作った年代を測るものさし
— 年輪年代学の成果 —

星野安治(埋蔵文化財センター 年代学研究室研究員)

15:55~16:00

閉会

※講演者等は変更することがありますのでご了承ください。



難波 洋三



尾野 善裕



渡辺 晃宏



神野 恵



石田 由紀子



星野 安治



主催：独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所
後援：文化庁 奈良県教育委員会 奈良市教育委員会 橿原市教育委員会 明日香村教育委員会 朝日新聞社

開催趣旨

飛鳥・藤原の都城や平城京の発掘調査は、奈良文化財研究所の主たる業務の一つです。1960年代以来、半世紀以上にわたって継続して実施してきたそれらの発掘調査では、膨大な数の土器や瓦が出土しています。そのような資料に基づいて土器や瓦の特徴の変化を詳細に検討するとともに、土器や瓦に伴って出土した紀年銘木簡や初鑄年の明らかな銭貨、正史などの文献資料を参考にして、私たちはより精緻で信頼性の高い古代の土器や瓦のタイムスケールづくりに努めてきました。そして、今では、奈良文化財研究所の作った古代の年代を測るこれらの「ものさし」は、全国各地の古代の遺跡や遺構の年代を測る「ものさし」作りにも活用されています。

また、奈良文化財研究所は、このようにオーソドックスな考古学的方法で精度の高い年代を測る「ものさし」を作り上げる努力を続ける一方で、近年は、木の年輪の成長の程度がそれぞれの年の気候や環境に左右されることに着目した、年輪年代法という自然科学的な年代測定法をわが国で初めて導入し、従来の弥生時代の年代観を大きく書き換えるなどの画期的な成果を上げてきました。

今回の特別講演会では、奈良文化財研究所が古代の遺跡や遺物の年代を測る「ものさし」を作るために、土器・瓦・木簡などの研究が互いにどのように補完しあって研究を進めてきたのかを紹介します。また、年代を測る「ものさし」の目盛りの変遷を振り返るとともに、年代学的研究の限界や問題点、自然科学的な年代測定法との関係などについても考えます。

年代学的研究は、考古学の根幹をなす最も重要な研究課題です。今回の東京講演会では、この古くて新しい問題を、皆さんと一緒に原点に立ち返って考えてみることにしたいと思います。



《お申し込み方法》

ホームページ上のお申し込みフォーム、または下記項目にご記入のうえ、FAXにて事務局までお申し込みください。
▶▶ <http://www.kuba.co.jp/nabunken1025/>

※参加申し込みにてご提供いただきました個人情報は、本シンポジウムの受付と統計・分析および関連イベントのご案内以外には使用いたしません。

遺跡の年代を測るものさしと奈文研 FAX申込書 [03-3238-1837]

※切り取らずにこのままFAXにてお送りください

ふりがな
氏名

連絡先(自宅 ・ 勤務先) ※連絡先が勤務先の場合、必ず会社名まで明記ください。

〒

電話番号

FAX番号

E-mailアドレス

@

次回以降のシンポジウム案内を 希望する ・ 希望しない